

1. 日時 : 2016年11月8日(火)16:00-17:00
2. 出席者数 : 126名
3. 主な質疑内容 :

－ 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。末尾に注意事項を記載しています。－

Q. 東燃ゼネラル石油との経営統合について、公正取引委員会の審査の状況をご教示いただきたい。

A. 現在審査いただいているところであり、コメントは差し控えたい。

Q. 7-9月の石油精製マージンが、公表時の見込みを下回った理由は何か。下期のマージンが弱含む懸念はあるか。

A. 7月のマージンが、原油代の下落局面でタイムラグにより悪化したことが主要因と考えている。下期は計画通りと見込んでいる。

*タイムラグとは、石油製品の売値とコストに時間差が発生すること。石油製品の売値は直近の原油価格が反映される一方、コストはおおよそ1か月前に購入した原油価格(産油国における積み月の原油価格)が反映されるため、原油価格の変動局面においては、売値とコストに一時的な値差が生じる。

Q. カセロネスの状況は。

A. 上期は気象条件の悪化等があり、7割程度の稼働率であった。足元は、コンサルタントと協議のうえ構築した改善プログラムの計画通り進捗している。

以 上

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、

- (1) マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化
- (2) 法律の改正や規制の強化、
- (3) 訴訟等のリスク など

が含まれますが、これらに限定されるものではありません。